

組子技術と設計士・空間デザイナーとの 関係強化で、質の高い吉原ブランドの確立

新規顧客層への展開、商圏の拡大、独自性・独創性の発揮、ブランド力の強化、顧客満足度の向上、機能分化・連携、IT活用、サービス提供プロセスの改善

日本の伝統 発想の転換で美しく変身 下請け型から提案型へ 海外でも高評価



インテリアなど 組子の新分野を切り拓く

【経営理念】

職人として在るべき「心・技・体」を伝え受け継ぎ、人々の心を豊かにするものづくりをめざす。

棚田が日本海に向かって広がる三隅町室谷で昭和33年に吉原重文会長(80)が創業。作り付け家具・建具を中心にあらゆる木工製品を手掛けてきたが、富山県の組子専門店で6年間、組子技術の修行を積んできた四男の敬司専務(40)が、組子製品に力を注いでいる。障子などの建具に使われる細い部材に切り込みを入れ、釘や接着剤を使わず、木と木を組み合わせでさまざまな模様を形作る組子細工は、熟練の技が必要とされる。

しかし、帰郷当時、住宅の洋風化で床の間に消えてゆき、日本の伝統的な木工技術である組子細工の欄間や書院障子の出番が少なくなってきた。そこで、フロア照明や衝立などインテリアとして現代の生活空間に取り込める組子の新しい使い方を次々と提案した。平面的な建具から立体的なインテリアに変身させた「曲げ組子」技法、組子模様を大柄化した「リビング障子」(グッドデザイン賞2013年度)は、発想の転換で業界の常識を打ち破り、組子の新分野を切り拓いてきた。



組子細工の最大の難点であった 生産性・コスト面が大幅に改善

熟練の技が必要とされる組子。それだけに機械化が難しいが、「リビング障子」で開発した組子模様の大柄化で部材の木片のサイズアップが図られ、工程の一部で機械加工が可能になった。新しく導入した工作機は、組子の部材を加工する機械で、コンピューターに数値を打ち込めば、設計通り木片に切り込みを入れてくれる。全自動のおかげで作業中に人員を張り付けておく必要はないうえ、加工時間の短縮が図られ、大幅に生産性が上がり、コスト面も改善された。そのため、一般家庭が求めやすい価格設定もできるようになった。

さらに、工作機を最大限に活用することで、逆に手仕事では難しいデザインもこなせ、高品質の提供も可能となり、設計士や空間デザイナーから

吉原 敬司専務

全自動NCラジアルソー



- 1 強度と耐久性を備えたりビング障子
- 2 組子の部材を加工する全自動の工作機
- 3 組子の組み立て作業

求められる特殊な案件にも対応ができるようになった。また、デザインを含めたモノづくりの提案ができるようになり、下請け型から提案型へと、立ち位置も変わりつつある。



現代の空間にマッチした 商品開発で若者にも人気

現代の生活空間に取り込める組子の新しい用途を次々と提案してきた同社。従来の工務店や建築会社だけでなく個人の施主も巻き込もうと、同社のホームページ上に「リビング障子」を写真と合わせて価格も掲載、その結果、施主からの注文が大半を占め、それも30～40歳代の若い人たちの家づくりに取り入れられるようになった。デパートの展示会にも積極的に出店、一般消費者の需要掘り起こしにも力を入れている。

インテリア業界の「パリコレ」ともいわれるパリの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」や東京国際展示場にも出展し、スイス、シンガポールからも注文が舞い込んできた。会社紹介のホームページも日本語に合わせて英訳文を新たに掲載するなど、日本の伝統美を海外へ伝えていくことにも挑戦していく。

Company Data

(有) 吉原木工所



同社作業所内の様子

代表者名：吉原 文司
設立年月日：昭和33年11月
資本金：5,000千円
従業員数：9名
業種：組子製品・木製家具・建具製造業
売上：120百万円
住所：〒699-3303
島根県浜田市三隅町室谷912番地1
電話：0855-34-0227
FAX：0855-34-0233
URL：<http://yoshiharawoodworks.com/>
メール：info@yoshiharawoodworks.com